

嘉麻赤十字病院 公的医療機関等2025プラン

令和元年 11月 策定



嘉麻赤十字病院

【嘉麻赤十字病院の基本情報】

- 医療機関名：嘉麻赤十字病院

- 開設主体：日本赤十字社

- 所在地：福岡県嘉麻市上山田1237

- 許可病床数：142床（平成31年4月1日付）
（病床の種別）一般142床

（病床機能別）急性期49床、回復期43床、慢性期50床

- 稼働病床数：140床（平成31年4月1日付）
（病床の種別）一般140床

（病床機能別）急性期49床、回復期43床、慢性期48床

- 診療科目：内科・循環器内科・消化器内科・神経内科・皮膚科・小児科・精神科
外科・泌尿器科・整形外科・眼科・耳鼻いんこう科・放射線科
リハビリテーション科

- 職員数：182名（平成31年4月1日付）
 - ・医師 8名（正職員 6、嘱託職員2、非常勤職員除）
 - ・看護職員 88名（正職員79、嘱託職員6、臨時職員3）
 - ・専門職 25名（正職員24、嘱託職員1）
 - ・事務職員 61名（正職員22、嘱託職員31、臨時職員8）

- 認定・指定等：救急告示病院
エイズ協力病院
医師臨床研修病院（協力型）

【1. 現状と課題】

●構想区域の現状

(1) 人口及び高齢者の推移

【飯塚区域（飯塚市、嘉麻市、嘉穂郡（桂川町）】

○人口

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成 27（2015） 推計）によると、飯塚区域の総人口は減少を続け、平成 22（2010）年の 187,944 人が、令和7年（2025）年には 166,186 人（対平成 22 年▲11.6%）となり、令和22年（2040）年には 140,610 人（同 ▲25.2%）となると予想されています。

○65歳以上の高齢者人口

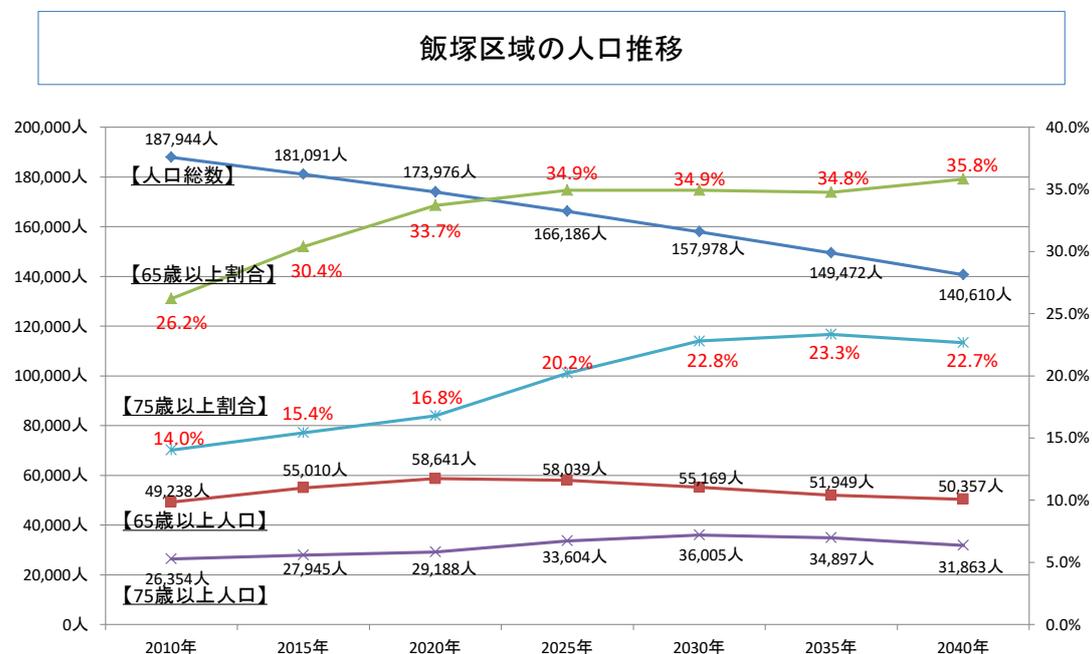
65 歳以上の高齢者人口は令和2年（2020）年の 58,641 人をピークに減少に転じますが、総人口に占める割合は、平成22（2010）年の26.2%が、令和7年（2025）年には34.9%、令和22年（2040）年には **35.8%に増加**すると予想されています。

○75歳以上の後期高齢者人口

75歳以上の後期高齢者人口は令和12年（2030）年の 36,005人をピークに減少に転じますが、総人口に占める割合は、平成 22（2010）年の14.0%が、令和7年（2025）年には20.2%、令和22年（2040）年には**22.7%に増加**すると予想されている。また、男性、女性の平均寿命の違いから、特に女性の後期高齢者人口が多く増加すると予想されています。

○年齢階級別の人口

年齢階級別の人口変化では、5歳から20歳までの年代で人口が流出しており、その後の年代でも流入による大きな人口増加は見られず、**75 歳以上の後期高齢者人口の増加に伴い死亡者数が増加**していくと予想されています。



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月中位推計）」

【嘉麻市】

○人口

嘉麻市の総人口は減少を続け、全国と比較して減少率が高く、2010年に対して2040年には**61.0%にまで減少**すると予想されています。

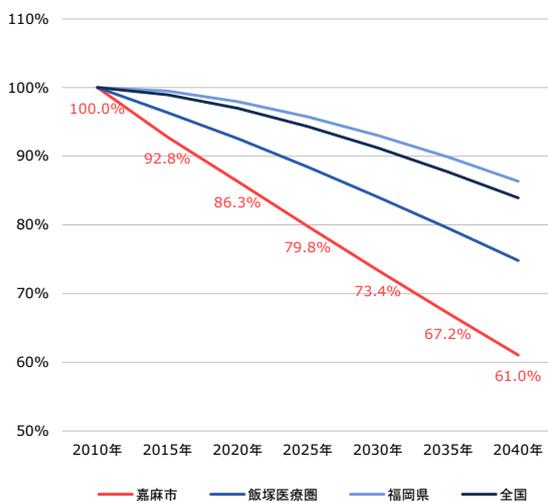
○65歳以上の高齢者人口

嘉麻市は総人口に占める老年人口（65歳以上）の割合が高く、2040年には総人口の**41.0%にまで増加**すると予想されています。

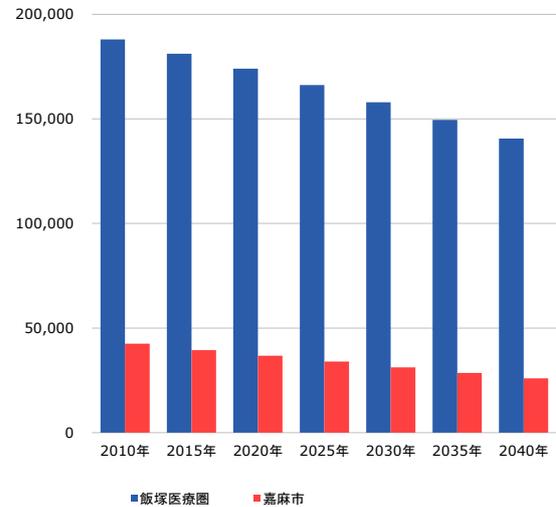
○年齢階級別の人口

嘉麻市は、全国及び福岡県と比較して、総人口に占める年少人口（15歳未満）及び生産年齢人口（15歳以上65歳未満）の割合が小さくなり、著しく少子高齢化が進む地域となっています。

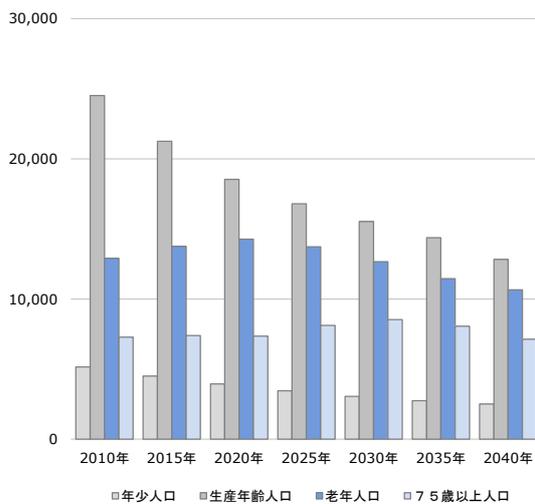
人口増減割合 対2010年



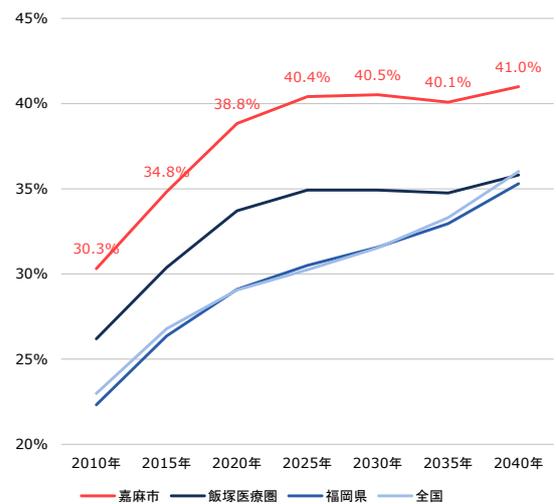
飯塚医療圏と嘉麻市の人口推移（人）



嘉麻市の年齢構成区分別人口推移（人）



総人口に占める老年人口の推移



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月中位推計）」

(2) 医療需要と必要病床数

飯塚医療圏における医療施設調査に基づく平成 26 (2014) 年時点の許可病床数は 3,466 床で、令和 7 年 (2025) 年の必要病床数の推計値と比較すると、必要病床数が許可病床数を 986 床下回っています。

病床機能報告に基づき、病床の機能別に現状の病床数と令和 7 年 (2025) 年の必要病床数の推計値を比較すると、回復期では現状の病床数が必要病床数を 104 床下回っています。また、高度急性期も 176 床下回っていますが、高度急性期と急性期の合計値で比較した場合は 685 床上回っています。

【平成 27 (2015) 年の機能別病床数】

病床の機能	病床数	割合
高度急性期	128 床	4.0%
急性期	1,723 床	53.5%
回復期	557 床	17.3%
慢性期	814 床	25.3%
合計	3,222 床	100.0%

出典 福岡県医療構想 (福岡県保健医療計画別冊) 平成 29 年 3 月 P197

【令和 7 年 (2025) 年の病床の機能別の医療需要と必要病床数】

病床の機能	医療需要	必要病床数
高度急性期	229 人・日	304 床
急性期	673 人・日	862 床
回復期	595 人・日	661 床
慢性期	601 人・日	653 床
合計	2,098 人・日	2,480 床

出典 福岡県医療構想 (福岡県保健医療計画別冊) 平成 29 年 3 月 P196

【特例適用に係る令和 12 年 (2030) 年の慢性期の医療需要と必要病床数】

病床の機能	医療需要	必要病床数
慢性期	569 人・日	618 床

出典 福岡県医療構想 (福岡県保健医療計画別冊) 平成 29 年 3 月 P196

【令和 7 年 (2025) 年の在宅医療等の医療需要】

	医療需要
在宅医療等	2,938 人・日

出典 福岡県医療構想 (福岡県保健医療計画別冊) 平成 29 年 3 月 P196 出典

福岡県医療構想 (福岡県保健医療計画別冊) 平成 29 年 3 月 P197

●構想区域の課題

(1) 病床の機能分化・連携

- 平成27（2015）年度の病床機能報告の病床数と令和7年（2025）年の必要病床数を比較した場合、回復期病床が104床不足する見込みとなっています。
- 回復期病床は、入院医療と在宅をつなぐ重要な役割を果たすことから、地理的な配置も考慮しながら既存の急性期又は慢性期病床からの転換により、回復期病床の確保を図っていく必要があります。
- 既存の医療資源の機能が十分発揮できるよう、医療機関間の連携や内科・歯科の連携を一層進めていくとともに、将来のあるべき医療提供体制を支える医療従事者の確保に取り組んでいく必要があります。
- 慢性期病床及び在宅医療等の機能分化・連携については、現在の療養病床入院患者の一部について、将来、在宅医療等で対応する患者として必要病床数が推計されていることから、在宅医療、介護施設等での受け入れ能力の向上が求められています。
- 在宅医療等の提供体制の充実や在宅医療・介護の連携強化に取り組んでいくとともに、介護サービスの確保に取り組んでいく必要があります。

●自施設の現状

嘉麻赤十字病院は、昭和13年に日本赤十字社福岡県支部山田診療所として発足し、昭和23年に筑前山田赤十字病院として病院に昇格、平成19年より市町村合併により嘉麻赤十字病院として嘉麻市の医療を支えています。

これまでも、「人道」、「博愛」、「奉仕」という赤十字精神のもとに、職員が一体となって地域に密着した質の高い医療の提供に努めてきました。これからも、赤十字精神にのっとり、地域密着の温もりのある質の高い医療の実践に努めていきます。

嘉麻赤十字病院は、嘉麻市内にて最も幅広い医療を提供できる医療機関として、また、救急医療などの政策医療や災害救護活動などを担う公的病院として、医療圏の中心的役割を担っています。市内に小児科、整形外科、泌尿器科としての医療を提供できる医療機関は少なく、地域に必要な医療機能を提供し続けています。

嘉麻市内の救急医療等を担う公的病院としての役割を果たす一方で、積極的な在宅医療の実施、24時間訪問看護サービスの提供、地域包括支援センターの受託、健診（嘉麻市で唯一の生活習慣病健診）と予防接種の実施など、嘉麻市内の地域医療にとって必要な多くの医療機能を持ち、教育研修機関としても役割を担っております。

当院の診療圏においては少子高齢化、過疎化は急激に進んでいることは周知の事実であり、独居・認知症の高齢者や要介護者はますます増加傾向にあります。この医療ニーズに応える責務と役割を担うことが当院の使命と考えております。そのために、急性期病院・診療所・福祉施設・高齢者相談支援センターや在宅介護支援センターとの連携強化を図るとともに、救急告示病院や在宅療養支援病院として、一般急性期病棟、地域包括ケア病棟を備え、在宅から介護までを担うサービスの提供を従来から行っています。

また、山田地区の核となるべく行政・福祉・医療機関等の連携に力を入れ、嘉麻市主催の健康講座には多職種にわたる職員を派遣。オレンジサロン（嘉麻市認知症対策総合支援事業）においては院内で定期的開催をしており、嘉麻市の地域包括ケアシステムの構築に積極的に取り組んでいます。

近年、頻繁に繰り返される大規模災害に対し、日本赤十字社としてハード・ソフト両面での備えをしていかなければならないため、福岡県や日本赤十字社の救護訓練に積極的に参加し赤十字の救護員として救護能力の向上を図っています。

【理念】

人道・博愛・奉仕の赤十字精神にのっとり、地域に密着した温もりのある質の高い医療の実践に努めます。

【基本方針】

1. 十分な説明と同意に基づくわかり易い医療を提供します。
2. 地域の皆様に安全と安心の医療を提供し、信頼される病院を目指します。
3. 地域の医療、福祉、保健施設との連携を図り、最良のサービスを提供します。
4. 地域の皆様にとって安心していただける救急医療を提供します。
5. 災害・事故などへの救護救援活動を使命とし、医療社会奉仕に努めます。
6. 高い技術と豊かな人間性をあわせもつ医療人を育成します。

【病院の沿革】

年 月	事 項(開設、名称変更等主要経緯)
昭和13年 4月	日本赤十字社福岡県支部山田診療所として発足
昭和23年 5月	病院に昇格 筑前山田赤十字病院へ名称変更
昭和57年 2月	現住所へ病院移転 病床数150床
昭和63年10月	救急告示病院認定(二次救急医療機関認定)
平成 9年10月	デイケア・訪問看護ステーション新設及び指定
平成12年 3月	居宅介護支援事業者指定
平成18年 2月	日本医療機能評価機構認定
平成18年 8月	訪問リハビリテーション開始
平成19年 4月	平成18年3月の1市3町合併による「嘉麻市」誕生に伴い嘉麻赤十字病院へ名称変更
平成20年 4月	地域医療連携室開設 健康管理センター開設
平成22年 9月	臨床研修病院(協力型)指定
平成25年 9月	在宅療養支援病院3 算定
平成26年 4月	在宅介護支援センター受託
平成26年12月	高齢者相談支援センター(山田地区)サブセンター受託
平成27年 3月	病床数を150床から144床に変更
平成27年 4月	地域包括ケア病棟入院料1 算定
平成29年7月	病床数を144床から142床に変更
平成30年4月	嘉麻赤十字24時間在宅ケアステーション指定

【届出入院基本料】

・ 特殊疾患病棟入院料 1	50 床	
・ 一般病棟入院基本料	49 床	
・ 地域包括ケア病棟入院料	43 床	計142床

【入院実績】

項 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
患者延数	39,437人	40,775人	40,095人	38,721人	39,301人
新患者数	1,091人	941人	997人	849人	902人
1日平均患者数	108.0人	111.4人	109.8人	106.1人	107.8人
病床利用率	80.6%	78.5%	77.4%	75.5%	75.8%
平均在院日数	17.3日	16.6日	18.2日	18.3日	18.4日

【外来実績】

項 目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
患者延数	68,514人	64,385人	61,860人	51,669人	51,717人
新患者数	5,591人	4,982人	4,962人	4,740人	4,744人
再来患者数	62,923人	59,403人	56,898人	46,929人	46,973人
1日平均患者数	282.0人	266.1人	254.6人	216.4人	216.6人

【診療科別患者数(平成30年度)】

	入院		外来					
	延患者数	1日平均	新患者数	1日平均	再来患者数	1日平均	延患者数	1日平均
内科	22,214	60.9	1,474	6.1	20,025	82.4	21,499	88.4
小児科	0	0.0	900	3.7	485	2.0	1,385	5.7
外科	8,818	24.2	416	1.7	3,966	16.3	4,382	18.0
整形外科	6,924	19.0	502	2.1	15,527	63.9	16,029	66.0
眼科	0	0.0	81	0.3	1,427	5.9	1,508	6.2
耳鼻科	1,345	3.7	1,334	5.5	4,759	19.6	6,093	25.1
泌尿器科	0	0.0	37	0.2	784	3.2	821	3.4
皮膚科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
精神科	0	0.0	10	0.0	908	3.7	918	3.8
合計	39,301	107.8	4,754	19.6	47,881	197.0	52,635	216.6

【居住域別患者状況(外来実人数)】

	患 者 実 数		
	平成31年3月	平成30年3月	構 成 比
嘉麻市	1,511	2,090	87.8
飯塚市	77	89	3.7
田川市	7	32	1.3
桂川町	36	29	1.2
川崎町	31	8	0.3
その他	69	133	5.6
合計	1,731	2,381	100.0

【救急医療】

- ・救急車受入台数 平成29年度 286件
平成30年度 316件

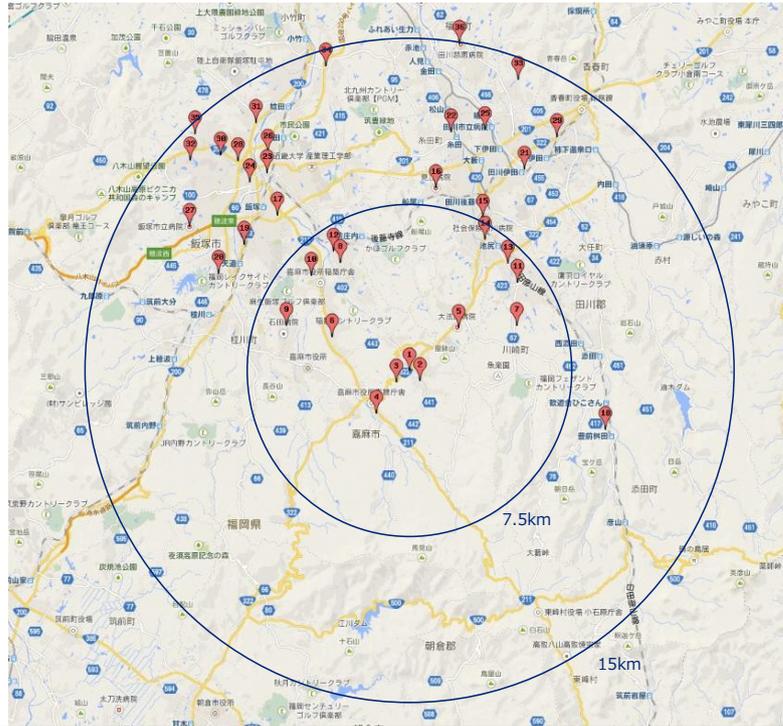
【災害医療】

- ・災害救護
 - ・東日本大震災(平成23年) 救護班3班、こころのケア看護2班 22名派遣
 - ・熊本地震(平成28年) 救護班2班、こころのケア看護他5件 17名派遣
 - ・九州北部豪雨災害(平成29年) 救護班1班、医療他9班 27名派遣
- ・救護訓練
 - ・福岡県防災総合訓練6名
 - ・原子力災害対応基礎研修2名
 - ・日本赤十字社救護訓練他7件 26名

【近隣医療圏の状況】

嘉麻赤十字病院を中心に半径 10km の近隣病院について確認すると、当院から近い順番では、大塚病院、松岡病院とありますが、当院から鎌田病院までの半径 2.4km 圏内には一般病床がない状況となっています。現状の医療機能では、嘉麻市内でみると、鎌田病院、西野病院、社会保険医療協会 稲築病院がありますが、診療所の数も少ない状況であり、小児科及び整形外科を担う医療機関は、少ない状況となっています。

■近隣医療圏における病院の分布状況



No.	距離	施設名称
1	0.0	嘉麻赤十字病院
2	0.6	大塚病院
3	0.8	松岡病院
4	2.4	鎌田病院
5	3.0	大法山病院
6	3.9	健康リハビリテーション内田病院
7	5.3	川崎町立病院
8	5.9	西野病院
9	6.0	石田病院
10	6.2	社会保険 稲築病院
11	6.4	松本病院
12	6.4	有松病院
13	6.6	長主病院
14	6.9	古川病院
15	7.7	社会保険 田川病院
16	8.3	見立病院
17	9.3	飯塚記念病院
18	9.3	英彦山病院
19	9.5	三宅脳神経外科
20	10.0	済生会 飯塚嘉穂病院
21	10.5	村上外科病院
22	10.9	糸田町立 緑ヶ丘病院
23	11.1	飯塚病院
24	11.3	児嶋病院
25	11.4	田川市立病院
26	11.8	たていわ病院
27	12.0	飯塚市立病院
28	12.3	明治記念病院
29	12.5	一本松すずかけ病院
30	13.1	共立病院
31	13.2	永永病院
32	13.9	総合せき損センター
33	14.1	田川新生病院
34	14.3	額田病院
35	14.5	社会保険 二瀬病院
36	15.0	田川慈恵病院

No.	施設名称	DPC	病床数							特定入院料等 回復 緩和 障害者	地包 在宅 救急	住所	距離
			一般	療養	介護	精神	結核	感染	合計				
1	嘉麻赤十字病院		150	0	0	0	0	0	150		地包1 病3	○ 嘉麻市上山田 1 2 3 7	0.0
2	大塚病院		0	12	36	0	0	0	48			嘉麻市上山田 1 4 4 0-7	0.6
3	松岡病院		0	42	0	188	0	0	230			嘉麻市上山田 1 2 8 7	0.8
4	鎌田病院		60	0	0	0	0	0	60		病1	嘉麻市中益 4 2 0-1	2.4
5	大法山病院		0	0	0	534	0	0	534			田川市大字猪国 6 9 0	3.0
6	健康リハビリテーション内田病院		0	72	0	0	0	0	72	48		嘉麻市牛隈 2 5 1 0-4	3.9
7	川崎町立病院		60	42	0	0	0	0	102		○	田川郡川崎町大字川崎 2 4 3 0-1	5.3
8	西野病院		60	60	0	0	0	0	120		○	嘉麻市鴨生 5 3 2	5.9
9	石田病院		30	40	31	0	0	0	101		○	嘉穂郡桂川町大字土師 2 8	6.0
10	社会保険医療協会 稲築病院		80	101	0	0	0	0	181			嘉麻市口巻 7 4 4-1	6.2
11	松本病院		40	40	0	0	0	0	80		○	田川郡川崎町大字川崎 1 6 8 1-1	6.4
12	有松病院		40	0	0	0	0	0	40			嘉麻市鴨生 8 2 4	6.4
13	長主病院		0	32	0	0	0	0	32			田川郡川崎町大字田原 1 1 2 1	6.6
14	古川病院		0	6	30	0	0	0	36		病3	田川郡川崎町大字池尻 2 9 6-1	6.9
15	社会保険 田川病院	○	348	0	0	0	0	0	348		○	田川市上本町 1 0-1 8	7.7
16	見立病院		0	0	0	410	0	0	410			田川市大字弓削田 3 2 3 7	8.3
17	飯塚記念病院		0	0	0	400	0	0	400			飯塚市鶴三 1 4 5 2-2	9.3
18	英彦山病院		0	19	0	147	0	0	166			田川郡添田町大字中元寺 8 4 4-1 4	9.3
19	三宅脳神経外科		44	0	0	0	0	0	44		○	飯塚市薬市 2 4 3-1 1	9.5
20	済生会 飯塚嘉穂病院		199	0	0	0	0	0	199	20	○	飯塚市太郎丸 2 6 5	10.0

引用：九州厚生（支）局 施設基準の届出受理状況（2014年11月1日現在）

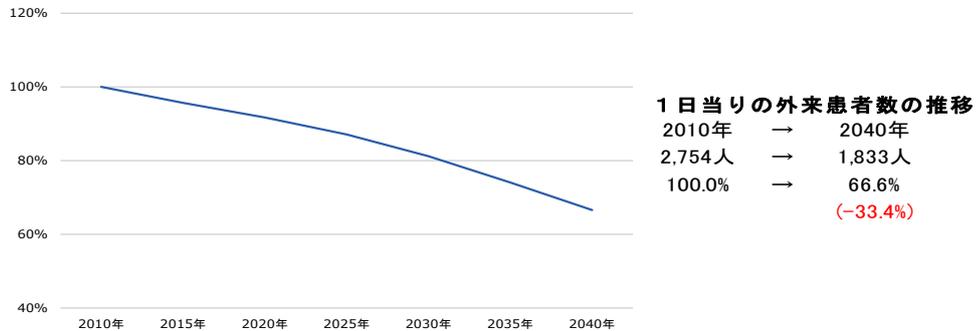
【将来推計患者数】

嘉麻市は、人口減少が著しいですが、高齢化も急速に進むため、医療機関受療率の高い老年人口の割合が増加します。それに伴い、将来の患者数を入院及び外来患者数に分けて推計しています。

(1) 外来

外来における将来推計患者数は、2010年以降年々減少し、2040年には2010年に対して33.4%減少すると推計されています。疾患別に将来推計患者数をみると、外来では消化器系の疾患、筋骨格系及び結合組織の疾患の患者が特に減少すると予測されています。

■嘉麻市の将来推計外来患者数



※年齢区分別将来推計人口×年齢区分別性別受療率
 ※受療率は全国の数値を使用しています（診療所の数値を含む）
 ※受療率の年次変化は考慮していません

疾病別将来推計外来患者数

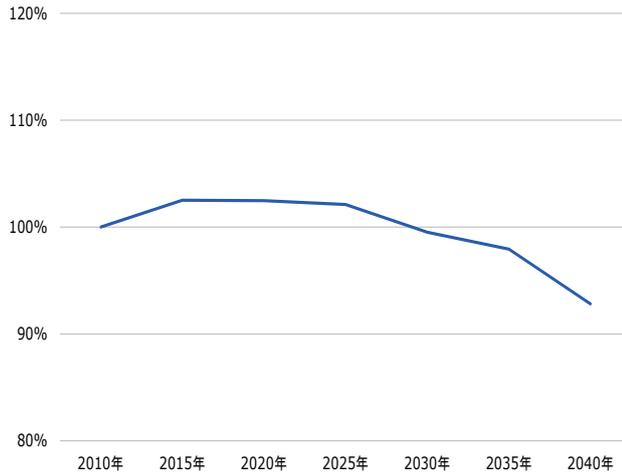
	1日当たり外来患者数(人) (受療率×年齢別人口の推移)			増加率 (対2010年度)		増加数	
	2010年	2025年	2040年	2025年	2040年	2025年-2010年	2040年-2010年
総数	2,754	2,399	1,833	87.1%	66.6%	-355	-921
I 感染症及び寄生虫症	60	49	36	82.2%	61.2%	-11	-23
II 新生物	85	76	57	89.3%	67.6%	-9	-28
III 血液及び血管の疾患並びに免疫機構の障害	8	7	5	85.5%	65.7%	-1	-3
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	167	146	108	87.5%	65.1%	-21	-58
糖尿病（再掲）	85	76	58	89.8%	68.3%	-9	-27
V 精神及び行動の障害	76	63	49	82.6%	65.3%	-13	-26
VI 神経系の疾患	61	58	48	94.8%	79.1%	-3	-13
VII 眼及び付属器の疾患	118	107	81	90.8%	68.9%	-11	-37
VIII 耳及び乳様突起の疾患	42	35	26	83.7%	62.6%	-7	-16
IX 循環器系の疾患	414	402	329	97.1%	79.5%	-12	-85
心疾患（高血圧性のものを除く）（再掲）	59	60	52	102.0%	88.5%	1	-7
脳血管疾患（再掲）	49	50	43	102.1%	86.1%	1	-7
X 呼吸器系の疾患	232	179	135	77.5%	58.4%	-52	-96
肺炎（再掲）	4	4	3	86.5%	72.1%	-1	-1
XI 消化器系の疾患	465	379	280	81.5%	60.1%	-86	-185
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	88	72	56	82.5%	63.3%	-15	-32
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	421	391	292	93.0%	69.3%	-30	-129
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	98	86	66	87.1%	66.8%	-13	-33
XV 妊娠、分娩及び産後	4	3	2	67.7%	50.8%	-1	-2
XVI 周産期に発生した病態	1	0	0	67.3%	50.9%	0	0
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	4	3	2	72.7%	52.6%	-1	-2
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	31	27	21	86.3%	65.9%	-4	-11
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	113	93	71	82.6%	63.3%	-20	-41
骨折（再掲）	38	34	26	88.0%	69.4%	-5	-12
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	268	223	167	83.2%	62.3%	-45	-101

引用：厚生労働省 2011年患者調査；総務省 人口推計（2011年10月1日現在）
 国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（2013年3月推計）

(2) 入院

入院における将来推計患者数は、2010年から2015年にかけては微増と推計されていますが、その後2040年にかけて緩やかに減少し、2040年には2010年に対して7.2%の減少があると推計されています。疾患別に将来推計患者数をみると、精神及び行動の障害の患者が減少し循環器系の疾患の患者が増加すると予測されています。

■ 嘉麻市の将来推計入院患者数



1日当りの入院患者数の推移
 2010年 → 2040年
 852人 → 791人
 100.0% → 92.8%
 (-7.2%)

※年齢区別将来推計人口×年齢区別性別受療率
 ※受療率は福岡県の数値を使用しています（診療所の数値を含む）
 ※受療率の年次変化は考慮していません

疾病別将来推計入院患者数

	1日当たり入院患者数(人) (受療率×年齢別人口の推移)			増加率 (対2010年度)		増加数	
	2010年	2025年	2040年	2025年	2040年	2025年-2010年	2040年-2010年
総数	852	870	791	102.1%	92.8%	18	-61
I 感染症及び寄生虫症	11	11	10	100.7%	88.4%	0	-1
II 新生物	77	73	60	94.8%	78.4%	-4	-17
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	1	1	1	96.5%	63.3%	0	0
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	29	31	30	107.3%	101.7%	2	0
糖尿病（再掲）	19	21	19	106.6%	99.3%	1	0
V 精神及び行動の障害	190	171	143	90.3%	75.3%	-18	-47
VI 神経系の疾患	87	92	84	106.3%	96.6%	5	-3
VII 眼及び付属器の疾患	6	6	5	106.3%	85.8%	0	-1
VIII 耳及び乳様突起の疾患	0	0	0			0	0
IX 循環器系の疾患	159	179	176	112.5%	110.5%	20	17
心疾患（高血圧性のものを除く）（再掲）	36	42	43	116.1%	118.3%	6	7
脳血管疾患（再掲）	106	118	114	111.2%	107.1%	12	8
X 呼吸器系の疾患	59	67	67	113.2%	113.2%	8	8
肺炎（再掲）	20	25	26	122.3%	129.4%	5	6
XI 消化器系の疾患	33	34	29	100.0%	87.9%	0	-4
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	8	9	8	105.4%	94.7%	0	0
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	43	45	41	103.9%	94.3%	2	-2
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	27	28	25	103.8%	94.7%	1	-1
XV 妊娠、分娩及び産じょく	9	6	5	68.9%	51.5%	-3	-4
XVI 周産期に発生した病態	3	2	1	67.3%	50.9%	-1	-1
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	1	0	0	66.2%	50.1%	0	0
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されない	10	10	9	104.4%	90.3%	0	-1
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	96	102	95	105.2%	98.1%	5	-2
骨折（再掲）	70	76	73	109.0%	103.8%	6	3
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	3	3	3	95.8%	96.7%	0	0

※受療率は福岡県の数値を使用しています（診療所の数値を含む）

引用：厚生労働省 2011年患者調査；総務省 人口推計（2011年10月1日現在）

●自施設の課題

①政策への対応

地域医療ビジョンなどに対して柔軟に対応していく必要があります。

- ・第7次医療計画 ①介護保険事業と在宅医療の見直し
- ②疾病予防・介護予防

②嘉麻市内の人口減少と高齢化

現在、一般病棟の病床利用率が低い状況であり、嘉麻市及び飯塚保健医療圏では、将来に向けて大幅に人口が減少し、老年人口の比率は高まると推計されています。

平成22年 → 平成25年

- ・人口 1/4減少
- ・65歳以上の割合 36%増加
- ・75歳以上の割合 23%増加

③医療従事者の確保

訪問診療を行う医師や薬剤師、看護師などの在宅を支える医療従事者について、大幅な人口減少のある当該地域であっても、将来のあるべき医療提供体制を支えるために継続して人数を確保していく必要があります。

④医療需要への対応

飯塚医療圏を鑑みると、急性期が過剰で回復期が不足しています。嘉麻市南部を注視すると一般病院が少ないため、公的病院として医療機能の見直しと、在宅医療推進を検討していく必要性があります。

⑤在宅療養支援病院としての責任

飯塚医療圏では、全国、福岡県の平均値よりも施設数が少ないため、地域の医療・介護関係者、市町村等との間で十分コンセンサスを得ながら在宅医療と介護の連携強化を図っていく必要があります。

⑥災害救護活動

近年、頻繁に繰り返される大規模災害への対応を再検討する必要があります。

⑦定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業運営

地域住民の医療・介護ニーズは高いが人員等を含めた再検証の必要があります。

【2. 今後の方針】

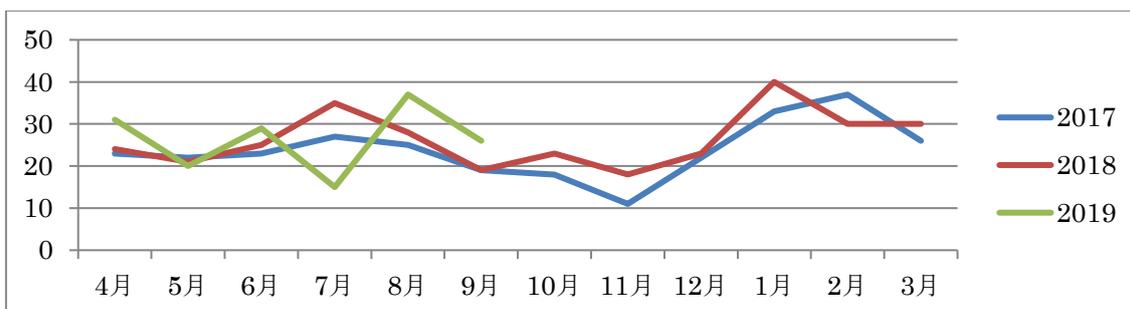
(1) 地域において今後担うべき役割（果たすべき役割）

嘉麻赤十字病院では、嘉麻市南部の救急医療を担う役割、地域包括ケア病棟を持つ病院としての役割、在宅療養支援病院としての役割の3つを柱に医療の提供を行います。

3つの主要機能に合わせて、病院では、がん患者の治療などの医療機能を強化するほか、在宅医療及び介護サービスの提供も充実させ、健診事業による予防医療を含めた地域貢献を行っていきます。

①嘉麻市救急医療を担う役割

嘉麻市南部で一般病床を持つ病院はなく、休日・夜間に1次・2次対応ができる開業医も少ないため、救急2次告示病院として山田地区及び嘉麻市内の救急医療を担うことが求められていると考えています。下記資料のとおり、夜間休日を含めた救急搬送患者を今後も積極的に受け入れていきます。その為には、救急受入体制を備えるために大学医局に頼らず常勤医師を確保していくこと。また、今後も飯塚市消防本部救急担当者を招き、当地区の実情、また、当院への要望を聞く場を設け、更に全職員の質の向上を図っていきます。



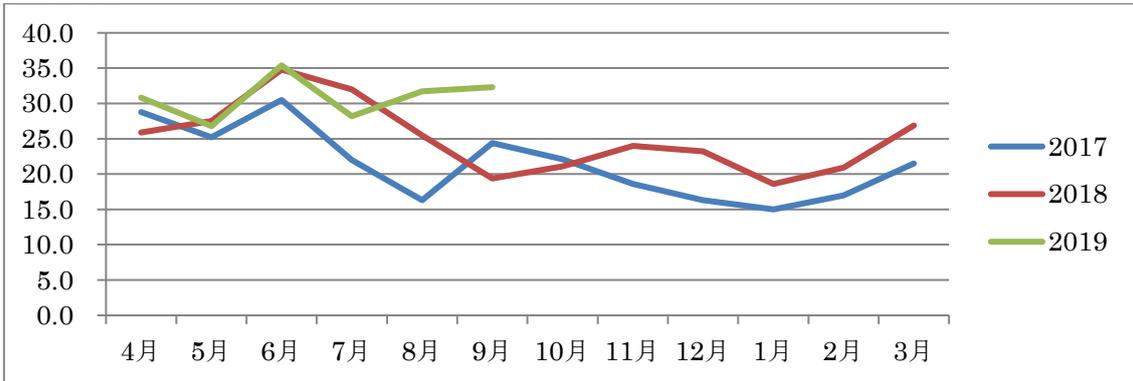
受入台数	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	2017	23	22	23	27	25	19	18	11	22	33	37	26
2018	24	21	25	35	28	19	23	18	23	40	30	30	
2019	31	20	29	15	37	26							

②回復期機能（地域包括ケア病棟）を持つ病院として担う役割

飯塚医療圏では、急性期医療を受けた患者の受け皿となる医療機関が不足しています。嘉麻市において地域包括ケア病棟があるのは当院を含めて数病院だけであり、リハビリ（PT、OT、ST）を中心とした亜急性期機能、回復期機能を担い続けます。

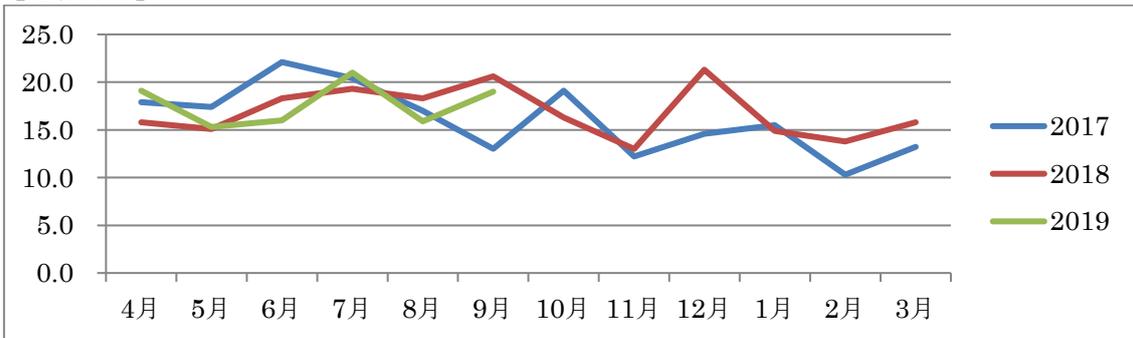
(i) 急性期病院からの紹介患者の受け入れ、(ii) 在宅患者及び介護施設からの緊急時の積極的受け入れ、(iii) 在宅・生活支援復帰（在宅復帰率70%以上）を積極的に行い、飯塚病院の連携病院として、今後も嘉麻市に必要な病院となっていきます。

【紹介率】



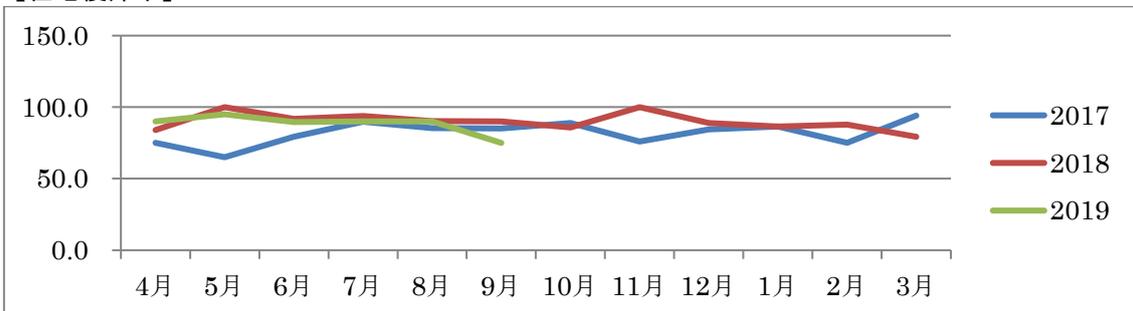
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017	28.8	25.2	30.5	22.0	16.3	24.4	22.1	18.6	16.3	15.0	17.0	21.5
2018	25.9	27.5	34.8	32.0	25.5	19.4	21.1	24.0	23.2	18.6	20.9	26.9
2019	30.8	26.8	35.4	28.2	31.7	32.3						

【逆紹介率】



月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017	17.9	17.4	22.1	20.4	17.0	13.0	19.1	12.2	14.6	15.5	10.3	13.2
2018	15.8	15.1	18.3	19.3	18.3	20.6	16.3	13.0	21.3	14.9	13.8	15.8
2019	19.1	15.3	16.0	21.0	15.9	19.0						

【在宅復帰率】



月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017	75.0	65.0	79.3	89.7	85.3	85.2	88.9	75.9	84.4	86.4	75.0	94.1
2018	83.9	100.0	91.9	93.9	90.3	90.0	85.7	100.0	88.9	86.5	87.9	79.3
2019	90.0	95.0	89.5	90.0	90.0	75.0						

【主な連携施設（2018.10～2019.9）】

紹介元連携施設	件数	紹介元連携施設	件数
飯塚病院	177	いわみハートクリニック	9
松岡病院	65	恵の里	9
大塚病院	55	長主病院	9
平塚医院	54	恵愛園	9
たちばな苑	49	健康リハビリテーション内田病院	8
吉原医院(ひまわり園・ほ乃ぼの園)	23	あい内科・消化器科クリニック	7
相良内科医院	31	顛田病院	7
社会保険稲築病院	21	鎌田病院	7
中武眼科クリニック	19	九州大学病院	7
社会保険田川病院	18	大村内科医院	7
菊原内科クリニック	17	さくら園	5
飯塚市立病院	14	岡眼科クリニック	5
かわくぼクリニック	12	総合せき損センター	5
済生会飯塚嘉穂病院	12	西野病院	4
松井医院	11	大塚内科クリニック	4

③嘉麻市の在宅療養支援病院としての役割

周辺に在宅医療を担う診療所が少ないため、当院でもかかりつけ医としての機能を担い、診療所や訪問看護ステーションと連携を図りながら在宅での療養を支援しています。

特に当院の訪問看護ステーションと緊密な連携を図り、24時間365日の緊急時対応ができる体制を構築することで、住み慣れた自宅で療養を望まれる患者に対し、いつでも安心して入院ができる医療の提供を行っています。そのために、高度急性期病院からの受け入れ、外来と病棟との連携を密に図り、末期がん患者等の看取りの受け入れ体制の強化を図っています。

医療依存度や介護度の高い対象者への介入も多様化し状況は変動しているため、在宅療養支援病院の訪問看護ステーションとして柔軟性が必要になっています。嘉麻市主催の委員会等に今後も多職種の職員を積極的に派遣することで、地域住民の在宅療養環境の向上に努めていきます。

また、平成30年度からは新規事業として嘉麻市より「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所」として選定されたことにより、市内の在宅療養支援環境により一層注力することができ、嘉麻市地域包括ケアシステムの核としての役割を担っていきます。

④嘉麻市地域包括ケアシステム構築に向けた役割

嘉麻市より受託している高齢者相談支援センターや在宅介護支援センターの確実な運営を行っています。嘉麻市地域ケア会議出席等、行政・他機関との積極的な連携を図っていきます。また、職員を積極的に派遣し他施設での技術指導や介護指導の実施をしています。高齢者やその家族が必要な医療・福祉・介護サービスが受けられるように行政・福祉施設・医療機関等との連携強化を今後も図っていきます。

認知症対策などを始めとして、嘉麻市の「予防」「住まい」「生活支援」を一体的に提供できる地域包括ケアシステム構築に取り組むにあたり、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所」を平成30年4月から開始したことにより、地域の核となり貢献していきます。

⑤医療依存度の高い在宅患者の入院受入

地域医療のニーズから医療依存度の高い在宅患者の入院の受入を、周辺地域のケアマネジャーや障害支援相談員との連携を強化し、地域包括ケアシステムの一環として積極的に受け入れ、患者やその家族が安心して在宅で療養できるように取り組んでいます。

また、本年4月より小児科に常勤医師を迎えたことで、小児の在宅患者の受入をしていくよう準備しています。

⑥各種健診事業の役割

嘉麻市で唯一の生活習慣病予防検診のできる病院として健診事業を強化し、市内の住民と企業の職員の健康を守っていく役割を今後も担っていきます。

そのためには、今後も嘉麻市個別乳がん検診や、乳児・幼児健診にも積極的に取り組んでいきます。

また、健診結果の正確な数値算出維持のため、検査部門では九州臨床制度管理調査、福岡県医師会制度管理調査、日本医師会臨床制度管理、日本検査技師会制度管理調査などに参加し、検査精度の更なる向上に今後も努めていきます。

⑦災害医療の役割

当院は赤十字医療施設として赤十字本来の使命に基づき、日本赤十字社法、日本赤十字社定款及び日本赤十字社救護規則等により嘉麻赤十字病院災害実施対策要綱を策定するとともに、常時救護班2ヶ班を編成し、被災地（平成28年熊本地震、平成29年7月九州北部豪雨等）に救護班を派遣しており、今後の災害に備えるため日本赤十字社福岡県支部主催の救護訓練や、福岡県総合防災訓練など積極的に訓練の参加を重ねております。

また、災害時等に被災された方々に寄り添う心のケア要員3名を育成、配置しております。さらに救護班については、救護業務の状況に応じ、班毎の基準人員を調整することも可能で、必要に応じて薬剤師・保健師・特殊救護要員を加えることができます。

⑧定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所としての役割

「嘉麻市介護保険事業計画策定のためのアンケート調査報告書」の中の【調査結果14 自宅での生活を続けるために必要なこと】。また、【調査結果16 今後希望する介護方法】においても、要介護度にかかわらず「自宅で家族の介護の他に、介護保険の在宅サービスなどを利用したい」というニーズが多い結果が出ています。

定期巡回サービスが整備されることで、本来の希望に沿った「自宅での生活の継続」が実現できると考えており、その役割を赤十字、また、地域拠点病院として担う必要性があると考えています。

当院が、サービスを充実したものにすることで嘉麻市地域包括ケアシステムの構築が可能になると考えています。

⑨地域における赤十字の役割

平成29年4月より毎月定期的開催しているオレンジサロン（嘉麻市認知症対策総合事業）において、赤十字健康生活支援講習指導員の資格を有する看護職員が、赤十字健康教室シリーズを実施しています。その取り組みにより、地域の高齢者が認知症予防や介護に必要な知識・技術について学び、住み慣れた地域で最後まで暮らすことを目的としている地域包括ケアシステム構築に繋がっていくよう努めています。

4校（赤十字看護大学1校と筑豊地区の看護学校3校）の看護学生の実習施設として、地域の看護師養成に貢献しています。赤十字は全国91施設共通のキャリア開発ラダーを導入しており、卒後の教育体制が充実しています。また、卒後3年間で救護員としての赤十字看護師の育成を行っており、常時災害救護に対応できる体制を整えています。

⑨地域貢献

(1) 2019年度オレンジサロン活動

	月日	曜日	活動内容	講師	健康相談	参加人数
			赤十字健康教室ミニ講座/予防リハビリ体操			
第1回	4月10日	水	在宅介護支援センターからのお知らせ	相談員	看護師	20
第2回	4月24日	水	健康チェック（健診の重要性）	看護師	看護師	25
第3回	5月8日	水	ロコモティブシンドローム	理学療法士	看護師	15
第4回	5月22日	水	急病・症状への対応方法	看護師	看護師	17
第5回	6月12日	水	健康になる食生活①	管理栄養士	看護師	20
第6回	6月26日	水	感染症①（食中毒）	看護師	看護師	15
第7回	7月10日	水	健口（嚥下）体操の方法	言語聴覚士	看護師	16
第8回	7月24日	水	認知症予防①	看護師	看護師	22
第9回	8月14日	水	お薬について①	薬剤師	看護師	9
第10回	8月28日	水	生活習慣病の予防（高血圧症）	看護師	看護師	14
第11回	9月11日	水	がんについて	医師	看護師	17
第12回	9月25日	水	やけどについて	看護師	看護師	16
第13回	10月9日	水	検査の豆知識	臨床検査技師	看護師	
第14回	10月23日	水	感染症②（インフルエンザ）	看護師	看護師	
第15回	11月13日	水	口腔内の清潔について	言語聴覚士	看護師	
第16回	11月27日	水	脳卒中の予防	看護師	看護師	
第17回	12月11日	水	健康になる食生活②	管理栄養士	看護師	
第18回	12月25日	水	認知症予防②	看護師	看護師	
第19回	1月8日	水	お薬について②	薬剤師	看護師	
第20回	1月22日	水	食物による窒息の対応	看護師	看護師	
第21回	2月12日	水	フレイル予防	理学療法士	看護師	
第22回	2月26日	水	認知症予防③	看護師	看護師	
第23回	3月11日	水	便秘について	医師	看護師	
第24回	3月25日	水	清潔について	看護師	看護師	

(2) 2019年度出前講座（地域住民）

実施日	曜日	時間	場所	団体名	参加人数	テーマ	講師
4月25日	木	13:00	上山田住民ホール	天神むつみ会	14	ともに楽しいひとときを！レクリエーション/リラクゼーション	看護師
4月26日	金	13:30	上山田住民ホール	嘉麻市民生委員会	65	認知症の方を地域で支えよう	看護師
6月4日	火	13:30	上山田住民ホール	ミニサロン水仙	9	備えて安心！脱水予防・急病の手当て	看護師
6月18日	火	13:30	ふるさと交流館	「お」の会	14	健康は「口」から！～お口がきれいだといいことだらけ～	言語聴覚士
6月24日	月	10:30	枝坂公民館	つくし会	15	備えて安心！脱水予防・急病の手当て	看護師
7月18日	木	10:00	鴨生北町集会所	鴨生北町町内会	14	日本赤十字社の災害時対応	事務
9月3日	火	13:30	上山田住民ホール	ミニサロン水仙	8	腰痛予防について	理学療法士
9月18日	水	13:30	上山田住民ホール	女性学級	15	ともに楽しいひとときを！レクリエーション/リラクゼーション	看護師
9月19日	木	13:30	山田下宮集会所	山田下宮老人クラブ		腰痛予防について	理学療法士
10月1日	火	13:30	上山田住民ホール	ミニサロン水仙		日本赤十字社の災害時対応	事務
10月10日	木	10:00	鴨生北町集会所	鴨生北町町内会		腰痛予防について	作業療法士
10月24日	木	11:00	中央集会所(日赤前)	中央サワラデ福寿会		腰痛予防について	理学療法士
11月22日	金	13:30	下山田公民館	下山田分館		筋肉を強くする食生活～いつまでも自分で買い物に行けるために～	管理栄養士
12月26日	木	11:00	中央集会所(日赤前)	中央サワラデ福寿会		健康は「口」から！～お口がきれいだといいことだらけ～	言語聴覚士
1月16日	木	13:30	山田下宮集会所	山田下宮老人クラブ		筋肉を強くする食生活～いつまでも自分で買い物に行けるために～	管理栄養士
3月19日	木	13:30	山田下宮集会所	山田下宮老人クラブ		ともに楽しいひとときを！レクリエーション/リラクゼーション	看護師
3月26日	木	11:00	中央集会所(日赤前)	中央サワラデ福寿会		ともに楽しいひとときを！レクリエーション/リラクゼーション	看護師

(3) 2019年度出前講座（福祉施設職員）

実施日	曜日	時間	施設名	テーマ	講師
5月22日	水	18:40	たちばな苑	救急時の対応と心肺蘇生	看護師
6月18日	火	15:30	山田慈恵会	応急手当について	看護師
10月15日	火	15:30	山田慈恵会	感染症対策(インフルエンザ)	看護師
10月23日	水	18:40	たちばな苑	感染症対策(インフルエンザ)	看護師
2月18日	火	15:30	山田慈恵会	施設での機能訓練について	理学療法士
3月25日	火	18:40	たちばな苑	誤嚥予防とその対策について	言語聴覚士

(2) 今後持つべき病床機能

急性期治療を終えた患者の受入れ（ポストアキュート）、地域で慢性疾患を抱える在宅患者及び介護施設からの緊急時の受入れ（サブアキュート）をして、医療管理・リハビリ・退院支援を積極的に行います。

山田・嘉穂地区の拠点病院として、他機関・多種職と連携を図りながら、住み慣れた地域でいつまでも安心できる在宅生活をサポートしていくため地域包括ケア病床へ転換する必要がある。

(3) その他見直すべき点

将来に向けて、嘉麻赤十字病院は飯塚保健医療圏の中で果たす役割と嘉麻市内の地域包括ケアシステムにおける「医療」「介護」「予防」「住まい」「生活支援」のサービスにおける中心的役割を担い、公的病院として嘉麻市と協力したまちづくりを目指します。

【3. 具体的な計画】

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在(平成28年度) 病床機能報告		将来(2025年度)	
			病床機能報告	病棟・病床区分
高度急性期	0	→	0	
急性期	51		42	急性期一般病床30床 地域包括ケア病床12床
回復期	43		43	地域包括ケア病棟43床
慢性期	50		50	特殊疾患病棟50床
(合計)	144		135	急性期一般病床2床減床済 急性期一般病床7床を減床

※平成29年7月1日付 急性期病棟病床数 49床(平成28年度病床数より2床減)

※急性期一般病床12床を地域包括ケア病床へ転換、7床を減床し急性期一般病床を30床とする。

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2019~2020 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療構想に伴う病院機能検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院機能検証後、速やかに自施設の病床に関する方向性を決定 ・地域包括ケア病床(12床)へ転換 	
2021~2023 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「診療報酬改定」施設基準取得に向けたプロジェクト設立 		

② 診療科の見直しについて

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	総合診療科、皮膚科 (嘉麻市南部に診療科が不在)
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率： 83.8%
- ・ 紹介率： 30.0%
- ・ 逆紹介率： 25.0%

経営に関する項目*

- ・ 人件費率： 55.0%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合
： 0.4%

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

○地域包括病床へ転換する理由

今後も嘉麻市の人口減少は続き、加えて高齢化も急速に進むことが予測されており、医療機関受療率の高い老年人口の増加が見込まれる一方、飯塚医療圏では、急性期医療を受けた患者の受け皿となる医療機関が不足している地域となっている。また、かかりつけ医や介護施設からの慢性疾患を抱える高齢者の増悪時に、連携して積極的に受入れをおこない、在宅医療の後方支援的な役割が求められている。

そのため、今回の地域医療構想の病床再編における当院の方針としては、急性期治療を終えた患者の受入れ（ポストアキュート）、地域で慢性疾患を抱える在宅患者及び介護施設からの緊急時の受入れ（サブアキュート）をして、医療管理・リハビリ・退院支援を積極的に行います。

嘉穂・山田地区の拠点病院として、他機関・多種職と連携を図りながら、住み慣れた地域でいつまでも安心できる在宅生活をサポートしていくため、急性期病床12床を地域包括ケア病床へ転換するものですが、転換するにあたり医療法上の1床あたりの基準（面積）を満たすことが出来ない、7床を減床することといたします。

〈その他、地域包括ケア病床を増やす理由〉

平成31年4月より小児科の常勤医を確保できたことで、在宅で療養する医療的ケア児の受け皿を検討中。